

瓦じゃーなる

no.9

発行:日経工務店有限会社
2017年9月12日

こんにちは、おかだです。だいぶんと暑さも和らいで、みなさんお元気ですごされているとおもいます。月日が経つのが今年もあと数か月しかないの
で1日1日、有意義に過ごしたいとおもっています。

この間、以前からお世話になっているお屋敷の門長屋の外壁を修繕させていただきました。築300年以上経つ土蔵の外壁で経年劣化と周りに生えている竹の根っこで足もとから傷んで壁自体ゆらゆら動いていました。



ゆらゆら動いている部分は、新しい下地を造らせてもらい、現在の工法で仕上げ、ま

だ、しっかりしているところは、土蔵の風合いをのこすように、崩れた壁土と新しい壁土を混ぜ合わせて塗り直させてもらいました。7、8年前にくぐり門のかご堀を直させてもらったのですが、左官の工程では、途中の工程に

なる中塗り仕上げさせてもらって、お屋敷の雰囲気合った仕上がりとなっております。中塗りのままだと風合いはいいのですが、風雨には弱いイメージがあったのですが、その壁の表面は以前と変わらなくしっかりしています。竹や物がぶつかって欠けたりもしてますが、それ以外



崩れた土を再利用

は、いい風合いです。今回の壁もそ

のような感じが合っているとおもったので、同じやり方で直させてもらいました。左官屋さんは今では、セメントや樹脂ボンド系の硬化の早い材料で仕上げる職人さんが多いですが、土を扱う事ができるひとは、時代とともに高齢化もあって上手な職人さんが少なくなっています。



以前 直させてもらったカゴ堀

こういった仕事の時は、いつも決まった職人さんに塗ってもらっていて、土を扱わせたら自分の中では、近畿で1番だとおもっています。親子ペアで作業をし剛と軟を兼ね備えているので力仕事と繊細な作業とうまく親子

で分担し効率がいいです。息子さんは、以前、相撲部屋に入っていた力士で怪力で、親父さんは、茶室の炉壇を造るくらい繊細なこてを使う事ができるのでいいコンビです。今回も自分の思っていた感じに仕上げてくれたので、嬉しかったです。



イメージ図



小旅行

先日、家族で生駒にあるセイリュウっていう旅館に宿泊させていただきました。いつもよくしてくれる建具屋さんの社長が奥さんとよく行くといっていて「料理が手ごろな価格で、美味しく量もたくさんあっていいよ」というので行ってきました。また石切で近くなので遠出するのが苦になる両親には丁度いい距離でした。温泉は、普通に気持ちよかったです。料理は、話に聞いてた様にとってもおいしく、品数もたくさんありたべきれないくらいのりょうでした。親父も母親も夜景を観ながら入る温泉がよかったみたいで何度も出たり入ったりをくりかえしてました。旅館は、昭和天皇や吉田茂元首相も宿泊されたみたいでちょっと昭和感が漂っていて、いい雰囲気でした。上階に行くと大阪の夜景が一望できてとてもきれいでした。また行こうと思います。



夜になると夜景が綺麗



床の改修 幕末に建てられお屋敷の床をやり直させてもらいました。昨年 シロアリの駆除の業者さんに薬を床下全面、散布してもらった時床を支える塚木や要所要所、材木がくちていると言われたので、ご主人に相談して直させてもらいました。仏間とその隣のつづきの間の8帖、8帖の計16帖の床組み



(大引き、根太)を組み替えさせてもらいました。既存の床組は、創建当初のままで、大引き(太い柱を横にした様な材木)曲がった杉の丸太や、どこかで使われていたような柱の古材が、使われていて、その上に、半分に割いた丸太が根太としてうまく高さを揃えて組まれていました。材木自体、意外としっかりしたものも多かったのですが、塚木(大引き

支えている木)がシロアリに食べられていたり、必要な箇所になかったりして床がぶよぶよしてました。畳が敷いていると、意外とわからないのですが、畳をあげると頼りない感じの床組みが、多いような感じがします。

今回は、ヒノキ材を大引きに使用し、束石も地面より高い位置に設置したので頑丈な床組みができました。以前、よそのお家で、人が集まった時、床がドンと、下がったというのを聞いた事が、あったので、よかったと思います。旧家の床組みは、通気性がいいので(現在の布基礎の立ち上げがない分)1回やり替えると、よほどのことがない限り、長く丈夫だとおもいます。



匠史の 道具箱

以前、一緒に仕事をさせていただいていた上出さん（大工の棟梁）の奥さんが先日、連絡があり上出の棟梁の3回忌がすんだので、使っていた道具を譲り受けました。今日では、あまり出番の少ない道具ですが、自分のような仕事では、役に立ちます。

上出の棟梁は、自分のあこがれていた大工さんで、大きな材木を扱うのは、もちろん、細かい細工も上手にされていました。特にその細かい細工が、他の大工さんと違い上手にされているのを見て、いつも感銘を受けてました。丁寧にするのは、できるのですが、やはり、熟練の職人さんだけに手際が良く、速かったです。いただいた道具も、そのような細工ができるように、既存の道具を自分なりに加工し、刃のとどかない、隙間や、端なども切ったり、削ったりできるよう、試行錯誤の工夫がしておもしろいです。作業場には、他にも棟梁自作の定規が、たくさんおいてありました。定規は、さすがに、本人でないはどこに使うのかわからないです。

上出の棟梁は、建具の建付けも上手でした。動かなかった襖や障子が、棟梁が通ると、指1本で、動くようになり魔法のようでした。自分もそのような名人芸ができるよう少しでも近づけたらなあと思い、綺麗に磨いて、大切にに使わせてもらいたいとおもいます。

